

令和 6 年度

シラバス(学習計画書)



東京都新宿区立落合中学校

はじめに

「落合中学校シラバス（学習計画書）」は、本校が毎年作成している「教科年間指導計画」からポイントを抜き出し、各教科の1年間の授業計画・内容、評価のポイントなどを示したものです。また、教科指導以外では、本校の道德教育・特別支援教育、生徒会や学校行事などの特別活動、総合的な学習の時間の指導の全体像を示した全体計画を掲載しています。

落合中学校の教育活動の根幹である授業が「どのようにデザインされ、体系づけられているのか」…生徒の皆さんは、この「シラバス」によって、「いつ・どこで、何を・どんな順序で学ぶのか」を知ることができます。そして、3年間で教科ごとに見てみると、今学んでいる内容が、3年間でどのように発展していくのかを見通すことができ、皆さんの学習が系統的・計画的に進めやすくなります。また、各教科の評価・評定の方法についても確認することができます。ぜひ、この「シラバス」が、授業内容の十分な理解と定着、学習意欲（授業に積極的に臨む姿勢や自主的な家庭学習）の向上など、日々の学習に有効に活用されることを期待しています。

保護者の皆様におかれましては、このシラバスには全学年の内容を載せていますので、3年間で学ぶ内容やその配列、展開のようすなどをご理解いただくとともに、落合中学校での指導の進め方を知っていただいき、様々な視点からお子様にアドバイスをしていただければと思います。

本校のシラバスは教科指導の内容を中心に掲載されていますが、その基盤は、この3月に新宿区教育委員会に提出し審査を受けた「令和6年度・落合中学校の教育課程（学校教育の目的や目標を達成するために、教育内容を総合的に示した学校の教育計画）」です。落合中学校では審査を経た教育課程を基に、全ての教育活動を進めています。そして、本校の全教育活動の中から生徒に関わりの多いものをシラバスとしてお示しさせていただいております。また、平成29年度に新宿区教育課題研究校として研究を進めた「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業や新宿版GIGAスクール構想に沿ったICT機器の有効活用など、授業を軸とした毎日の教育活動の積み重ねを大切に本校の教育を進める所存です。ご家庭でもご一読のうえ、お子様と学び方について十分お話し合いくださるようお願いいたします。

令和6年4月1日 新宿区立落合中学校長 伊藤 裕一

国語科

■目標■

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

■各分野の目標■

【第1学年】

- (1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを求めようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

【第2学年】

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

【第3学年】

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通じて自己を向上させようとする態度を育てる。

■評価の観点と方法■

観点①……知識及び技能

観点②……思考力、判断力、表現力等

観点③……主体的に学習に取り組む態度

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業への参加姿勢(発言の内容・集中力)			○
ノートの記述・内容工夫、ワーク、問題集の実施状況		○	○
朗読、暗誦の内容や工夫	○	○	○
スピーチ、発表、プレゼンテーションの内容や工夫	○	○	○
聞き取りテストの結果	○	○	
読書感想文、課題作文、意見文の内容	○	○	○
創作俳句、短歌の作品の状況・鑑賞の取り組み		○	○
課題レポート・課題の内容取り組み姿勢		○	○
硬筆書写・毛筆書写の作品	○		○
定期考査の結果	○	○	
授業課題・小テスト(読解問題・文学史問題など)の結果	○	○	○
漢字テスト・文法テストの結果	○		○
デジタルドリルへの取り組み			○

■各学年の内容■

	第1学年	第2学年	第3学年
一学期	1. 朝のリレー 2. 野原はうたう 3. 声を届ける 書き留める 4. シンシュン 5. 情報を的確に聞き取る 6. 情報整理のレッスン 7. 情報を整理して書こう 8. 漢字の組み立てと部首 9. ダイコンは大きな根？ 10. ちょっと立ち止まって 11. 思考のレッスン 12. 話の構成を工夫しよう 13. 漢字に親しもう2 14. 文法への扉1 15. 情報を集めよう 16. 詩を作ろう 17. 比喩で広がる言葉の世界 18. 指示する語句と接続する語句 19. 言葉を集めよう 20. 読書を楽しむ 読書案内 21. 書写～楷書	1. 見えないだけ 2. アイスプラネット 3. 問いを立てながら聞く 4. 枕草子 5. 情報整理のレッスン 思考の視覚化 6. 多様な方法で情報を集めよう 7. 漢字1 熟語の構成 8. クマゼミ増加の原因を探る 9. 思考のレッスン 具体と抽象 10. 魅力的な提案をしよう 11. 漢字に親しもう2 12. 文法への扉 単語をどう分ける？ 13. メディアを比べよう 14. 短歌に親しむ 15. 言葉の力 16. 言葉1 類義語・対義語・多義語 17. 読書を楽しむ 18. 翻訳作品を読み比べよう 19. 読書案内 20. 書写～行書	1. 世界はうつくしいと 2. 握手 3. 評価しながら聞く 4. 学びて時に之を習ふ 5. 情報整理のレッスン 情報の信頼性 6. 文章の種類を選んで書こう 7. 漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう1 8. 作られた「物語」を超えて 9. 思考のレッスン 具体化・抽象化 10. 説得力のある構成を考えよう～スピーチ 11. 漢字に親しもう2 12. 文法への扉1 13. 実用的な文章を読もう 14. 俳句の可能性 15. 言葉を選ぼう 16. 言葉1 話語・漢語・外来語 17. 読書を楽しむ 18. 読書案内 19. 書写～行書

	第1学年	第2学年	第3学年
二 学 期	1. 大人になれなかった弟たち…	1. 盆土産	1. 挨拶—原爆の写真によせて
	2. 星の花が降るころに	2. 字のない葉書	2. 聞き上手になろう
	3. 聞き上手になろう	3. 聞き上手になろう	3. 論理の展開を整える
	4. 項目を立てて書こう	4. 表現を工夫して書こう	4. 言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語
	5. 読み手の立場に立つ	5. 表現の効果を考える	5. 漢字2 漢字の造語力
	6. 言葉2 方言と共通語	6. 言葉2 敬語	漢字に親しもう3
	7. 漢字2 漢字の音訓	7. 漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	6. 人工知能との未来
	8. 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	8. モアイは語る	7. 多角的に分析して書こう
	9. 思考のレッスン2 原因と結果	9. 思考のレッスン2 根拠の吟味	8. 漢字に親しもう4
	10. 根拠を示して説明しよう	10. 根拠の適切さを考えて書こう～意見文を書く	9. 話し合いを効果的に進める
	11. 漢字に親しもう3	11. 漢字に親しもう4	10. 合意形成に向けて話し合おう
	12. 話し合いの展開を捉える	12. 異なる立場から考える	11. 音読を楽しもう 初恋
	13. 話題や展開を捉えて話し合おう	13. 立場を尊重して話し合おう	12. 和歌の世界 古今和歌集 仮名序
	14. 音読を楽しもう 大阿蘇	14. 音読を楽しもう 月夜の浜辺	13. 君待つと一万葉・古今・新古今
	15. 音読を楽しもう いろは歌	15. 音読を楽しもう 平家物語	14. 夏草—「おくのほそ道」
	16. 蓬萊の玉の枝	16. 扇の的	15. 誰かの代わりに
	17. 今に生きる言葉 故事成語	17. 仁和寺にある法師	16. 情報を読み取って文章を書こう
	18. 根拠を明確にして意見をまとめよう	18. 漢詩の風景	17. 漢字3 漢字のまとめ
	19. 作品の書評を書く	19. 君は「最後の晩餐」を知っているか	漢字に親しもう5
	20. 漢字に親しもう4	20. 魅力を効果的に伝えよう	18. 文法への扉2
	21. 文法への扉 言葉の関係を考えよう	21. 漢字に親しもう5	19. 読書案内
	22. 読書案内	22. 文法への扉2	20. 書写～書写の活用
	23. 書写～行書	23. 読書案内	
		24. 書写～行書	

	第1学年	第2学年	第3学年
三 学 期	1. 少年の日の思い出	1. 走れメロス	1. 暖かいスープ
	2. 漢字に親しもう5	2. 漢字に親しもう6	2. わたしを束ねないで
	3. 文法への扉3 単語の性質を見つけよう	3. 文法への扉3	3. 三年間の歩みを振り返ろう
	4. 随筆二編	4. 構成や展開を工夫して書こう	4. 漢字に親しもう6
	5. 構成や描写を工夫して書こう	5. 言葉3 話し言葉と書き言葉	5. 学習を振り返ろう
	6. さまざまな表現技法	6. 漢字3 送り仮名	
	7. 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6	7. 国語の学びを振り返ろう	
	8. 一年間の学びを振り返ろう	8. 木	
	9. さくらの はなびら	9. 学習を振り返ろう	
	10. 学習を振り返ろう	10. 書写～行書	
	11. 書写～行書		
	なお、各学期ごとにデジタルドリルへの取り組みを活用し、漢字学習の振り返りを行う。		

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価		学習の実現状況		各評定の範囲		評定	
A	十分満足できる	80%以上		90%以上	5	特に高い程度のも	
B	おおむね満足できる	50%以上 80%未満		80%以上 90%未満	4	十分満足できる	
C	努力を要する	50%未満		50%以上 80%未満	3	おおむね満足できる	
				20%以上 50%未満	2	努力を要する	
				20%未満	1	一層努力を要する	

社会科

目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

各分野の目標

〔地理的分野〕

- 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 日本や世界の諸地域に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情・世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

〔歴史的分野〕

- 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

〔公民的分野〕

- 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活と向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論する力を養う。
- 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

評価の観点と方法

観点①… 基本的な知識を身につけている。資料に親しみ、効果的に活用することができる。

観点②… 社会的な思考・判断ができる。その過程や結果を適切に表現できる。

観点③… 主体的に学習に取り組む態度が身についている。

評価方法（主要なもの）	観点①	観点②	観点③
授業への参加の姿勢・ドリルコンテンツ等、課題や提出物の取り組み	○	○	○
ノートやワークシートの内容や工夫	○	○	○
小テスト・まとめのテストの結果	○	○	○
定期考査の結果	○	○	○

各学年の内容

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
学 期	＜地理的分野＞ 第 1 部 世界と日本の地域構成 ○世界の姿 1 私たちの住む地球を眺めて 2 いろいろな国の国名と位置 3 緯度と経度 4 地球儀と世界地図の違い ○日本の姿 1 世界の中での日本の位置 2 時差でとらえる日本の位置 3 日本の領域 4 都道府県と県庁所在地 第 2 部 世界のさまざまな地域 ○人々の生活と環境 1 世界のさまざまな生活と環境 2 暑い地域の暮らし 3 乾燥した地域の暮らし 4 温暖な地域の暮らし 5 寒い地域の暮らし 6 高地の暮らし 7 衣食住とその変化 8 生活と宗教の関わり ＜歴史的分野＞ ○歴史へのとびら 1 歴史をとらえる見方考え方 2 身近な地域の歴史 ○古代までの日本 1 世界の古代文明と宗教のおこり 人類の出現と進化 古代文明のおこり 中国文明 ギリシャ・ローマ 三大宗教	＜地理的分野＞ 第 3 部 日本のさまざまな地域 ○身近な地域の調査 ○日本の地域的特色 1 山がちな日本の地形 2 川がつくる地形 3 日本の気候 4 日本の自然災害 5 自然災害に対する備え ＜歴史的分野＞ ○近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 中世ヨーロッパ ルネサンスと宗教改革 ヨーロッパ世界の拡大 信長・秀吉の統一事業 兵農分離と対外政策 桃山文化 2 江戸幕府の成立と対外政策 幕府成立と支配のしくみ さまざまな身分と暮らし 貿易の振興から鎖国へ 鎖国下の対外関係 琉球王国やアイヌ民族 3 産業の発達と幕府政治 農業や諸産業の発展 都市の繁栄と交通路 幕府政治の安定と元禄文化 享保の改革と社会の変化 田沼意次と寛政の改革 新しい学問と化政文化 外国船の出現と天保の改革	＜歴史的分野＞ 統 ○二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と日本 第一次世界大戦 ロシア革命 国際協調の高まり アジアの民族運動 2 大正デモクラシーの時代 大正デモクラシー 広がる社会運動 新しい文化と生活 3 世界恐慌と日本の中国侵略 世界恐慌とブロック経済 欧米の情勢とファシズム 昭和恐慌 満州事変 日中戦争と戦時体制 4 第二次世界大戦と日本 第二次世界大戦 太平洋戦争 戦時下の人々 戦争の終結 ＜公民的分野＞ 第 1 章 ○現代社会と私たち 1 現代社会の特色と私たち 2 私たちの生活と文化 3 現代社会の見方や考え方 第 3 章 ○現代の民主政治と社会 1 現代の民主政治 2 国の政治の仕組み 3 地方自治と私たち

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	<地理的分野> ○世界の諸地域 アジア州 1 自然環境 2 農業・文化と経済発展 3 中国 4 韓国 5 東南アジア 6 南アジア 7 中央アジア・西アジア ヨーロッパ州 1 自然環境 2 文化の共通性と多様性 3 EUの成り立ちと影響 4 農業とEUの影響 5 鉱業とEUの影響 6 EUが抱える課題 アフリカ州 1 自然環境 2 歴史と文化 3 特定の輸出品に頼る経済 4 課題とその取り組み <歴史的分野> 2 日本列島の誕生と大陸との交流 旧石器時代と縄文時代 弥生時代 大王の時代 3 古代国家の歩みと東アジア 聖徳太子の政治改革 律令国家への歩み 律令国家の成立と平城京 奈良時代の人々の暮らし 天平文化 3 古代国家の歩みと東アジア 平安京と律令国家の変化 摂関政治 国風文化	<地理的分野> 6 日本の人口 7 日本の資源・エネルギー 8 日本の農業・林業・漁業 9 日本の工業とその変化 10 日本の商業・サービス業 11 日本の交通網・通信網 12 さまざまな地域区分 ○日本の諸地域 九州地方 1 自然環境 2 人々の生活 3 農業 4 都市や産業の発展 5 南西諸島 中国・四国地方 1 自然環境 2 交通網の整備と人々の生活 3 瀬戸内の工業 4 農業 5 人々を呼び寄せる地域の取り組み 近畿地方 1 自然環境 2 琵琶湖と京阪神大都市圏 3 工業 4 奈良・京都と歴史的景観 5 林業と漁業 中部地方 1 自然環境 2 東海地方の工業 3 東海の農業 4 中央高地の産業 5 北陸の産業 関東地方 1 自然環境 2 首都東京 4 拡大する東京大都市圏 5 人口の集中 6 工業 7 農業と過疎問題 東北地方 1 自然環境 2 伝統行事と生活・文化 3 稲作と畑作 4 果樹栽培と水産業 5 工業の発展 北海道 1 自然環境 2 人々の生活 3 稲作 4 畑作や酪農・漁業 5 自然を生かした観光	<公民的分野> 第2章 ○個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会 3 これからの人権保障 第4章 ○私たちの暮らしと経済 1 消費生活と経済 2 生産と労働 3 価格の働きと金融 4 政府の役割と国民の福祉 5 これからの経済と社会

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	<地理的分野> ○世界の諸地域 北アメリカ州 1 自然環境 2 移民の歴史と民族構成 3 農業 4 工業 5 生産と消費の問題 南アメリカ州 1 自然環境 2 多様な民族と文化 3 農業と工業 4 資源の開発・環境保全 オセアニア州 1 自然環境 2 歴史と多文化社会 3 他地域と結びつく産業 <歴史的分野> ○中世の日本 1 武士の政権の成立 武士の成長 院政から武士の政権へ 鎌倉幕府成立と執権政治 武士と民衆の生活 鎌倉文化と宗教 2 ユーラシアの動きと武士の 政治の展開 ユーラシア世界 モンゴルの襲来 南北朝の動乱と室町幕府 東アジアとの交流 産業の発達と民衆生活 応仁の乱と戦国大名 室町文化	<地理的分野> 第4部 ○地域のあり方 <歴史的分野> ○開国と近代日本の歩み 1 欧米における近代化の進展 イギリスとアメリカの革命 フランス革命 ヨーロッパの国民意識 ロシアの拡大 産業革命と資本主義 2 欧米の進出と日本の開国 欧米のアジア侵略 開国と不平等条約 開国後の政治経済 江戸幕府の滅亡 3 明治維新 新政府の成立 明治維新の三大改革 富国強兵と文明開化 近代的な国際関係 国境と領土の確定 領土をめぐる問題の背景 自由民権運動 立憲制国家の成立 4 日清・日露戦争と近代産業 欧米列強の侵略 日清戦争 日露戦争 韓国と中国 産業革命の進展 近代文化	<公民的分野> 第5章 ○地球社会と私たち 1 国際社会の仕組み 2 さまざまな国際問題 3 これからの地球社会と日本 【終章】 よりよい社会を目指して

※評価・評定のラインについては他の教科と同様です。

数学科

■ ■ ■ 目 標 ■ ■ ■

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的に表現し処理する技能を身に付け、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

■ ■ ■ 各学年の目標 ■ ■ ■

【第1学年】

- (1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し、処理できるようにする。
- (2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を培う。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を培う。
- (4) 目的に応じて資料を収集し、資料の傾向を読み取る能力を培う。

【第2学年】

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

【第3学年】

- (1) 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。
- (2) 図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。
- (4) 標本調査の意味やその方法を理解し、標本の傾向から母集団の傾向を読み取れる力を培う。

■ ■ ■ 評価の観点と方法 ■ ■ ■

- 観点①… 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身につけている。事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身につけている。
- 観点②… 事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現することができている。課題を行う過程において、振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。
- 観点③… 数学的な事象に関心をもっているか。数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり、判断したりしようとしている。授業に意欲的に参加し、発言や発表を意欲的に行っている。課題を期限内に仕上げ、内容もしっかりと出来ているか。

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業中の発言の様子や内容・発表・授業への参加姿勢	○		○
グループ活動における意欲的な参加姿勢	○	○	○
宿題・提出物の内容	○	○	○
プリント・ワークシート・レポートの内容・工夫	○	○	○
定期考査の結果	○	○	○
単元テスト・小テストの結果	○	○	○

■ ■ ■ 各学年の内容 ■ ■ ■ ★特に重視する内容

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
学 期	整数の性質 ・倍数と約数について見直す。 自然数、素数、素因数分解 1章「正負の数」 ★正負の数を利用して、身のまわりの問題を解決する。 ・身のまわりの事象や、互いに反対の性質をもつ量、正負の数を用いて表す。 ・正負の数を数直線上に表し、また数直線上の点を正負の数を用いて表す。 ・正負の数の大小関係を、不等号を用いて表す。 ・正負の数の四則計算をする。 ・正負の数に関する用語の意味を理解する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>プラス、マイナス、正の数、負の数、自然数、原点、正の方向、負の方向、不等号、絶対値、交換法則、結合法則、項、四則(加減乗除)、分配法則、2乗、3乗、平方、立方、累乗、指数、逆数</u> 2章「文字と式」 ★色々な数量や公式などを、文字を用いて表したり、式の意味を読み取ったりする。 ・文字式に数を代入して式の値を求める。 ・1次式の加減や、1次式と数の乗除の計算をする。 ・文字式の積や商の表し方の決まりを理解する。 ・ π をふくむ文字式の表し方の決まりを理解する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>代入する、式の値、項、係数、π</u>	1章「式の計算」 ・文字を2つ以上含む式の計算方法に関心を持ち、それらを計算する。 ・事象を、文字を用いて表して、その意味を読み取ったりするなど、文字式を利用する。 ★問題解決のために、文字式の計算をして、式を変形する。 ・整式の加減、多項式と数の乗除、単項式の乗除の計算をする。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>単項式、多項式、次数、1次式、同類項</u> 2章「連立方程式」 ・連立方程式やその解について関心を持ち、その解き方を考えて解を求める。 ・文字を2つ用いて方程式を作ることによって、問題解決の場面が広がったり、解決が容易になったりすることに気づく。 ・連立方程式を、形に応じて適切に解く。 ★具体的な場面で、数量の間の関係を捉えて連立方程式を作り、その答えを求める。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>2元1次方程式、連立方程式、解、解く、消去する、加減法、代入法</u>	1章「多項式」 ・単項式や多項式の乗法や除法の計算をする。 ・式の展開や因数分解の公式を用いて多項式を処理し、問題解決に生かす。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>展開、乗法公式、因数、因数分解</u> 2章「平方根」 ・有理数と無理数の意味を知る。 ・素数や素因数分解を用いて、数のしくみを調べる。 ・根号をふくむ式を簡単な形または必要な形に変形する。 ・不等号(>、<)を用いて、平方根の大小関係を表す。 ・自然数を素数と素数でない数に分類する。 ・分母の有理化を利用して、数を変形する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>平方根、根号、$\sqrt{\quad}$、因数、素数、素因数、素因数分解、分母の有理化、無理数、有理数</u> 3章「2次方程式」 ・平方根の考えや因数分解を利用して2次方程式を解く。 ・平方根の意味に帰着させて、2次方程式を解く。 ★解の公式を用いて2次方程式を解く。 ★具体的な事象の中で2次方程式を作り、問題解決をする。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>2次方程式、解、解く、解の公式</u>

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	3章「方程式」 ・数量の間の関係を等式や不等式で表す。 ・具体的な問題を、方程式を活用して解く。 ・等式の性質や移項の考えを用いて方程式を解く。 ・方程式を、形に応じた解き方を考えて解く。 ★身のまわりの数量の間の関係を方程式に表し、それを解いて問題解決をする。 ・比例式の性質を利用して、問題を解く。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>等式、左辺、右辺、方程式、解、解く、等式の性質、移項、分母をはらう、1次方程式、不等式、$\geq$、$\leq$、比の値、比例式</u> 4章「比例と反比例」 ・関数の関係を調べ、式などで表す。 ・平面上の点の位置を表す方法を考える。 ・比例や反比例の関係を、表や式、グラフなどを用いて表し、その特徴を調べる。 ★具体的な事象について、比例・反比例の見方、考え方やグラフを利用して解決する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>関数、変数、比例、比例定数、変域、座標軸、原点、座標、反比例、双曲線</u> 5章「平面図形」 ★身の回りにある図形から、線対称、点対称の図形を見つけ、その性質を調べる。 ・定規とコンパスのみを用いて作図できることに興味を持ち、その方法を考える。 ・基本の作図を利用し、目的に応じた図形を書く。 ・図形の移動の意味や性質を理解させる。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>線分、直線、半直線、中点、弧、弦、おうぎ形、中心角、多角形、正多角形、線対称、点対称、垂線、垂直二等分線、角の二等分線、接する、接線、接点、平行移動、回転移動、対称移動</u>	3章「1次関数」 ★身の回りの事象の中から2つの量の関係に関心を持ち、様々な方法で1次関数について調べる。 ・1次関数の関係を表や式、グラフなどを用いて表し、その特徴を調べる。 ★身の回りに1次関数と見なせる事象が多くあることに気づき、その事象の考察に関数の見方や考え方を活用する。 ・2元1次方程式のグラフを書くことや式を読み取る。 ・2元1次方程式のグラフの交点の座標を利用して連立方程式の解を求める。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>関数、1次関数、変化の割合、切片、傾き</u> 4章「平行と合同」 ★平面図形の性質について、筋道を立てて考え、説明する。 ・基本的な図形の性質を予想し、そのことを論理的に考察する。 ★三角形の合同条件について関心を持ち、それらを用いて論理的な推論や証明をする。 ・対頂角や平行線と角の性質を利用して、角の大きさを求める。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>内角、外角、対頂角、同位角、錯角、証明</u> <u>合同、仮定、結論、三角形の合同条件</u> 5章「三角形と四角形」 ・二等辺三角形や平行四辺形の色々な性質に関心を持ち、それらを演繹的に導く。 ・定理とその逆に関心を持ち、色々な場合についてその逆を考える。 ★直角三角形の合同条件を用いて、図形の性質を考察する。 ★二等辺三角形や平行四辺形の性質を用いて、図形の性質を考察する。 <u>頂角、底角、底辺、定義、定理、逆、斜辺、対辺、対角、$\square$ABCD</u>	4章「関数$y=ax^2$」 ・ $y=ax^2$ のグラフを書いて、その特徴を調べる。 ・身のまわりの事象の中から放物線を描く事象を見いだす。 ・ y が x の2乗に比例する関係を、表や式、グラフなどを用いて表し、その特徴を調べる。 ★指数関数やグラフが階段状になる関数について考察する。 ★具体的な事象を、放物線と直線の考え方を利用して、解決する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>放物線、変化の割合</u> 5章「相似な図形」 ・2つの三角形が相似になる条件を調べる。 ・三角形の相似を利用して、距離や高さなどいろいろな線分の長さを求める。 ★三角形と比、平行線と比の性質を利用して、いろいろな図形の性質を考察する。 ★相似な図形の面積比と体積比の関係を調べる。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>相似、相似の中心、相似の位置にある、比の値、三角形の相似条件、中点連結定理</u> 6章「円」 ・円周角の定理が成り立つことを証明し、円の色々な角の大きさを求める。 ・円周角と弧の定理から図形の性質を考察する。 ・円周角の定理の逆を用いて図形の性質を考察する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>円周角</u>

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	6章「空間図形」 ★身の回りにある立体について観察、操作や実験を通して、調べる。 ・空間図形を見取図や展開図、投影図を用いて平面上に表し、その性質を調べる。 ★柱体や錐体、球の表面積や体積、おうぎ形の弧の長さや面積について、観察や操作、実験を通して求める。 ・立体を、性質により分類する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>多面体、正多面体、角柱、円柱、角錐、円錐、ねじれの位置にある、母線、回転体、表面積、側面積、底面積、投影図</u> 7章「データの分析と活用」 ・データを度数分布表やヒストグラムに表したり、また、相対度数を求め、データの傾向を読み取る。 ・データの範囲や代表値を求め、それらからデータの傾向を読み取る。 ・近似値をもとに、真の値の範囲を、不等号を用いて表す。 ・近似値や誤差について考える。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>階級、階級の幅、度数、度数分布表、ヒストグラム、度数折れ線、相対度数、範囲、代表値、平均値、メジアン、中央値、モード、最頻値、誤差、累積度数、累積相対度数</u> <u>ことがらの起こりやすさ</u> ・不確定なことがらの起こりやすさを、割合をもとにして考え、説明する。 <u>確率</u>	5章「三角形と四角形」 (前述) ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 6章「確率」 ★具体的な事象について、起こりうる場合について関心を持ち、それを順序よく整理して調べる。 ・起こりうる場合を、順序よく整理して考察する。 ★ある事象の起こる程度を数で表し、それを利用して考察する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>確率、同様に確からしい、樹形図</u> 7章「データの比較」 ・四分位数や四分位範囲の意味を理解し、それらを求めて、箱ひげ図に表す。 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性を理解する。 ★箱ひげ図を用いて、複数のデータの分布の傾向を比較して判断する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>四分位数、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数、四分位範囲、箱ひげ図</u>	7章「三平方の定理」 ・直角三角形の3つの辺の間に成り立つ関係を調べる。 ・3辺の長さがどのようなときに直角三角形になるかを調べる。 ★三平方の定理を利用して、いろいろな問題を解決する。 ★特別な直角三角形の辺の比を使って、目的の辺の長さを求め、いろいろな問題の解決を図る。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>三平方の定理、ピタゴラスの定理、特別な直角三角形</u> 8章「標本調査」 ・いろいろな調査に関心をもち、その方法や規模について調べる。 ・標本調査について、簡単な実験を行い、母集団の傾向を読み取る。 ・乱数表などを利用して、数を無作為に抽出する。 ・デジタルドリルを活用して学習内容の復習をする。 <u>無作為に抽出する、標本調査、全数調査、母集団、標本</u>

評価・評定のライン				
観点別学習状況の評価		学習の実現状況		
A	十分満足できる	80%以上		
B	おおむね満足できる	50%以上 80%未満		
C	努力を要する	50%未満		

各評定の範囲		評定	
90%以上	5	特に高い程度のも	
80%以上 90%未満	4	十分満足できる	
50%以上 80%未満	3	おおむね満足できる	
20%以上 50%未満	2	努力を要する	
20%未満	1	一層努力を要する	

理科

目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

内容

- (1) 自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点でとらえる。
- (2) 自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点でとらえる。
- (3) 生命に関する事物・現象を主として共通性・多様性の視点でとらえる。
- (4) 地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点でとらえる。

評価の観点と方法

観点①… 自然の事象・現象について理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。

観点②… 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。

観点③… 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

評価の目安

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業の様子 授業の受け方、観察・実験の取り組み方、発言・発表、ノートの取り方など	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト	○		
定期考査(中間考査、期末考査)	○	○	
提出物(ノート、ワーク、レポート、課題プリント)	○	○	○
デジタルドリルへの取り組み			○

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価	学習の実現状況
A 十分満足できる	80%以上
B おおむね満足できる	50%以上 80%未満
C 努力を要する	50%未満

各評定の範囲	評定
90%以上	5 特に高い程度のも
80%以上 90%未満	4 十分満足できる
50%以上 80%未満	3 おおむね満足できる
20%以上 50%未満	2 努力を要する
20%未満	1 一層努力を要する

各学年の内容

	第1学年	第2学年	第3学年
一 学 期	理科室のきまり 【生物】 単元1 生物の世界 1章 身近な生物の観察 ・ 校庭や学校周辺の生物 ・ 生物の分類 2章 植物のなかま ・ 種子をつくる植物 ・ 種子をつくらない植物 ・ 植物の分類 3章 動物のなかま ・ 動物の体のつくり ・ 脊椎動物 ・ 無脊椎動物	【化学】 単元1 化学変化と原子・分子 1章 物質のなり立ち ・ 熱による分解 ・ 電気による分解 ・ 物質をつくっているもの 2章 いろいろな化学変化 ・ 酸素と結びつく化学変化 ・ 酸素を失う化学変化 ・ 硫黄と結びつく化学変化 3章 化学変化と熱の出入り ・ 熱を発する化学変化 ・ 熱を吸収する化学変化	【物理】 単元1 運動とエネルギー 1章 力の合成と分解 ・ 力の合成 ・ 力の分解 2章 水中の物体に加わる力 ・ 浮力 ・ 水圧 3章 物体の運動 ・ 運動の表し方 ・ 力と運動 ・ 作用と反作用 4章 仕事とエネルギー ・ 仕事 ・ エネルギー ・ 力学的エネルギーの保存 ・ エネルギーとその移り変わり ・ エネルギーの保存 ・ 熱エネルギーとその利用
	探究活動 植物の分類を活用する 【地学】 単元4 大地の変化 地形や地層、岩石の観察 1章 火山 ・ 火山の活動 ・ マグマのねばりけの違いと火山の形 ・ 火山噴出物 2章 地震 ・ 地震の起きる場所 ・ 地震の起きるメカニズム ・ 地震が引き起こす災害	【生物】 単元2 生物の体のつくりと はたらき 1章 生物をつくる細胞 ・ 生物のからだをつくっているもの ・ 細胞と生物の体 2章 植物の体のつくりとはたらき ・ 葉のはたらき ・ 葉のつくり ・ 茎・根のつくりとはたらき ・ 葉・茎・根のつながり 3章 動物の体のつくりとはたらき ・ 消化と吸収 ・ 呼吸 ・ 血液とその循環	探究活動 エネルギー変換効率を考える 【生物】 単元2 生命のつながり 1章 生物の成長とふえ方 ・ 生物の成長と細胞 ・ 生物の子孫の残し方

	第1学年	第2学年	第3学年
	【化学】 単元2 物質のすがた 1章 いろいろな物質 ・身のまわりの物質 ・金属の性質 ・密度 2章 気体の発生と性質 ・身のまわりの気体 ・いろいろな気体の性質 3章 物質の状態変化 ・状態変化と質量・体積 ・状態変化と粒子の運動 ・状態変化と温度 ・蒸留 4章 水溶液 ・物質の溶解と粒子 ・溶解度と再結晶 ・水溶液の濃度 探究活動 メダルの謎	【化学】 単元1 4章 化学変化と物質の質量 ・質量保存の法則 ・反応する物質の質量の割合 探究活動 二酸化炭素の酸素を奪え 【物理】 単元3 電流とその利用 1章 電流と回路 ・回路の電流 ・回路の電圧 ・回路の抵抗 ・電流とそのエネルギー 【生物】 単元2 3章 動物の体のつくりとはたらき ・動物の行動のしくみ ・生物の体のつくりとはたらき	単元2 生命のつながり 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ・遺伝の規則性 ・遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化 ・生命の連続性 ・進化の証拠 ・生物の進化と環境 探究活動 遺伝子を扱う技術について考えよう 単元3 自然界のつながり 1章 生物どうしのつながり ・生物の食べる食べられる ・生物どうしのつり合い 2章 自然界を循環する物質 ・微生物による物質の分解 ・物質の循環 探究活動 身のまわりの生物の関わりを考えよう
	【地学】 単元4 大地の変化 地形や地層、岩石の観察 3章 地層 ・地層のでき方 ・地層の観察 ・堆積岩と化石 4章 大地の変動 ・火山や地震とプレート ・地形の変化とプレートの動き ・自然のめぐみと火山災害・地震災害 探究活動 震源はどこか	【地学】 単元4 気象のしくみと天気の変化 1章 気象観測 ・気象と私たちの生活 ・身近な場所の気象 2章 気圧と風 ・気圧とは何か ・気圧配置と風	【化学】 単元4 化学変化とイオンの変化 1章 水溶液とイオン ・電流が流れる水溶液 ・原子とイオン 2章 化学変化と電池 ・イオンへのなりやすさ ・電池とイオン ・いろいろな電池 3章 酸・アルカリとイオン ・酸・アルカリ ・中和と塩 探究活動 水溶液の正体は？

	第1学年	第2学年	第3学年
	【物理】 単元3 身近な物理現象 1章 光の性質 ・光の進み方とものの見え方 ・光の反射 ・光の屈折 ・凸レンズのはたらき ・光と色 2章 音の性質4 ・音の発生と伝わり方 ・音の大きさや高さ 探究活動 全身を映せる鏡	【物理】 単元3 2章 電流と磁界 ・電流がつくる磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導と発電 3章 電流の正体 ・静電気と力 ・静電気と放電 ・電流と電子 ・放射線とその利用 探究活動 明るい電球はどれだ	【地学】 単元5 地球と宇宙 1章 天体の動き ・太陽の1日の動き ・星の1日の動き ・天体の1日の動き 2章 月と惑星の運動 ・地球の運動と季節の変化 ・月の運動と見え方 ・惑星の運動と見え方 3章 宇宙の中の地球 ・太陽のすがた ・太陽系のすがた ・生命の星 地球 ・銀河系と宇宙の広がり 探究活動 季節の変化を調べよう
三 学 期	3章 力のはたらき ・力のはたらきと種類 ・力の表し方 ・力の大きささとばねののび ・力のつり合い	【地学】 単元4 3章 天気の変化 ・空気中の水蒸気の変化 ・前線と天気の変化 4章 日本の気象 ・日本の気象の特徴 ・日本の四季 ・自然のめぐみと気象災害 探究活動 明日の天気はどうなるか	【環境】 単元6 地球の明るい未来のために 1章 自然環境と人間 ・自然環境の変化 ・自然環境の保全 ・地域の自然災害 2章 科学技術と人間 ・エネルギーの利用 ・エネルギーの利用の課題 ・放射線の性質 ・いろいろな物質の利用 ・くらしを支える科学技術 終章 これからの私たちのくらし ・持続可能な社会にする方法 ・未来へつながる
	なお、各単元ごとにデジタルドリルを活用し、習熟度を測るとともに振り返りを行う。		

音楽科

■■■■ 目 標 ■■■■

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

■■■■ 各学年の目標 ■■■■

【第1学年】

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【第2学年及び第3学年】

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

■■■■ 評価の観点と方法 ■■■■

- 観点①… 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表現している。
- 観点②… 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- 観点③… 音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業への取り組み状況	○	○	○
ワークや学習プリントの提出状況や内容	○	○	○
実技テスト	○	○	○
定期考査	○	○	

教科書： 教育芸術社

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価	学習の実現状況
A 十分満足できる	80%以上
B おおむね満足できる	50%以上 80%未満
C 努力を要する	50%未満

各評定の範囲	評定
90%以上	5 特に高い程度のもの
80%以上 90%未満	4 十分満足できる
50%以上 80%未満	3 おおむね満足できる
20%以上 50%未満	2 努力を要する
20%未満	1 一層努力を要する

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
	<歌唱>	<歌唱>	<歌唱>
	「落合中学校校歌」 「We' ll Find The Way」 「その先へ」 「My Voice!」	「落合中学校校歌」 「夢の世界を」 「翼をください」 「My Voice!」	「落合中学校校歌」 「花」 「サンタルチア」
	・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。	・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。	・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。
	<鑑賞>	<鑑賞>	<鑑賞>
	「春」 「ジョーズのテーマ」	「フーガ ト短調」 「音楽鑑賞教室演奏曲」	「ボレロ」 「オーケストラの楽器」
	・曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えて聴く。	・曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えて聴く。	・曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えて聴く。
	<創作>		
	「Let' s Create!」		
	・音素材の特徴及び音の重なり方や反復・変化・対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して音楽を作る。		
	【音楽の基礎知識】通年	【音楽の基礎知識】通年	【音楽の基礎知識】通年
	・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方(ト音譜表・ヘ音譜表) ・音楽史	・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方(ト音譜表・ヘ音譜表) ・音楽史	・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方(ト音譜表・ヘ音譜表) ・音楽史

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	＜歌唱＞ 「落中発表会に向けて」 合唱曲の取り組み ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ＜鑑賞＞ 「魔王」 「日本の民謡」または 雅楽「越天楽」 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えて聴く。 ・我が国や郷土の伝統音楽及びアジアの諸民族の音楽の特徴や多様性について理解するとともに生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、聴く。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史	＜歌唱＞ 「落中発表会に向けて」 合唱曲の取り組み ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ＜鑑賞＞ 「アイーダ」から または歌舞伎「勧進帳」 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解するとともに曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ＜創作＞ 「My Melody」 ・音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について理解するとともに、それらを生かしたまとまりのある創作表現を創意工夫して音楽をつくる。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史	＜歌唱＞ 「落中発表会に向けて」 合唱曲の取り組み 「荒城の月」 ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ＜鑑賞＞ 「アランフェス協奏曲」 または、日本の音楽 ・鑑賞に関わる知識（曲想と主題の反復や独奏楽器とオーケストラによる音楽の構造との関わり）を得たり、生かしたりしながら、曲やその演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	＜器楽＞ 箏の演奏 「基礎的な奏法」「さくらさくら」など ・箏の音色や響きとその奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。 ＜鑑賞＞ 「六段の調」 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ＜歌唱＞ 「卒業式式歌」 ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ・卒業を祝う気持ちをもたせる。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史	＜器楽＞ 三味線の演奏 「基礎的な奏法」 「数え唄」など ・箏の音色や響きとその奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。 ＜鑑賞＞ 「世界の諸民族の音楽」 ・諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性を理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ＜歌唱＞ 「荒城の月」 「卒業式式歌」 ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ・卒業を祝う気持ちをもたせる。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史	＜器楽＞ 三味線の演奏 「発展的な奏法」 「江戸情緒」など ・三味線の音色や響きとその奏法との関わりについて理解する。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要なばちの持ち方や勘所の押さえ方などの三味線の基本的な奏法を身に付ける。 ＜鑑賞＞ 能 文楽など ・我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ＜歌唱＞ 「卒業式合唱候補曲」 「卒業式式歌」 ・発声の基本 ・曲想と音楽構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫して歌う。 ・卒業の喜びと感謝の気持ちをもたせる。 【音楽の基礎知識】 通年 ・楽譜の名称 ・楽譜に使われる記号、用語の理解 ・音符の読み方（ト音譜表・ヘ音譜表） ・音楽史

美術科

■ ■ ■ 目 標 ■ ■ ■

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

■ ■ ■ 各学年の目標 ■ ■ ■

【第1学年】

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。また、美術や美術文化に対する幅広い知識をもてるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

【第2学年及び第3学年】

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。また、美術や美術文化に対する幅広い知識をもてるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

■ ■ ■ 評価の観点と方法 ■ ■ ■

観点①…	「知識・技能」。対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、道具や材料を適切に用いて創造的に表すことができる。美術史等の学習をとらえて美術や美術文化に対する幅広い知識を習得している。
観点②…	「思考力、判断力、表現力等」。造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
観点③…	「学びに向かう力、人間性等」。美術への興味・関心をもち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組むことができる。毎回の授業に集中し、継続して課題に粘り強く取り組むことができる。

評 価 方 法	観点①	観点②	観点③
授業に取り組む姿勢(話をきちんと聞いている、作業に集中している、資料を活用している、提出期限を守る など)			○
定期考査への取り組み	○		○
アイデアシート・アイデアスケッチ・レポート等の内容	○	○	○
作品の内容(豊かな発想と適切な知識・技能)	○	○	○
作品の進度(見直しをもって作業しているか)			○

■ ■ ■ 各学年の内容 ■ ■ ■

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
一 学 期	オリエンテーション デッサン 基礎形態の鉛筆デッサン。 デッサンの基本的な描き方を理解する。 デッサンの表現活動を通して、形状の捉え方および明暗や質感を表現する鉛筆表現の技能を身に付ける。 色彩理論・彩色演習 色の大別や三要素など色の性質や色から受ける感情、色の機能等を学び、混色の効果や配色の工夫について学ぶ。 平塗りははじめ明暗や色相の塗り分け等の演習を通して、ポスターカラー絵具の基本的な使い方を身に付け、平面造形の基礎的能力を身につける。 鑑賞 色彩の特徴を理解し、作品や生活の中でどう活用されているか考えを深める。	オリエンテーション ポスターの制作(1) ポスターの下描きから彩色へ。 広く人々に印象深くメッセージを伝えるポスターの制作を行う。 アイデアスケッチをもとにして、制作の見通しを立て、イラスト・キャッチコピー・レイアウト・配色等の工夫を行いながら、用具を適切に用いて制作する。 鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。	オリエンテーション オブジェの制作(1) オブジェの切り出し・削り出し。 自然や街の中に置かれた美術作品が環境に与える変化に興味をもち、場にふさわしいオブジェを発想・構想し、立体作品として表現する。 材料、技法、立体造形の諸要素に配慮した形状を構想し制作手順の見通しを立てる。 素材や用具の特性を知り、意図に応じて創意工夫しながら用具を適切に用いて形を削り出し、丁寧に仕上げる。 鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	文字のデザイン ・ 絵文字を描く。 文字の形や意味を生かして、イラストと文字の融合を行い、楽しく美しい絵文字を表現する。	ポスターの制作（２） ・ ポスターの彩色。 配色等のさらなる工夫・改善を行いながら、用具を適切に用いて丁寧に仕上げる。	オブジェの制作（２） ・ オブジェの研磨と彩色。 材料の特性を理解し、適切に用具を使用しながら表面を美しく加工し形を完成させる。 彩色を丁寧に施しニスを塗布しオブジェを完成させる。
	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。	和菓子をつくる ・ 和菓子（本体）のデザイン。 日本の気候風土や伝統文化をもとに美しく楽しい和菓子のコンセプトと形態の構想を練る。 用具や材料の特性を理解し適切に用いながら美しい和菓子の食品模型を制作する。	絵皿のデザイン ・ スクラッチ絵皿の制作。 身近な生活用品としての皿のデザインに興味・関心をもち、モノクロの配色と円形を生かした構成を考え、技法を理解したうえで用具を適切に用いて表現する。
	平面構成 ・ 抽象形による平面構成。 色彩理論や構成美の要素を生かしながら、感情や感覚を抽象形を用いて表現する。自分の意図や思いに応じた構成と配色を行う。	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	手の彫刻 ・ 手をつくる（塑造）。 手の塑像制作を通して立体に表すことの楽しさを味わう。観察力を身に付けるとともに、動勢、均衡、量感等の立体的な造形要素を身に付ける。	ディスプレイをつくる ・ 和菓子のディスプレイ制作。 日本の気候風土や伝統文化をもとに、制作した和菓子を美しく魅力的に見せるためのディスプレイの構想を練る。 用具や材料の特性を理解し、適切に用いながらディスプレイを制作し、和菓子を効果的に配置して完成させる。	空想画の制作 ・ 言葉から発想する空想画。 シュールレアリスム等の手法を用いて、特定の言葉から喚起されるイメージを図像的に効果的に表すモチーフの選択、組み合わせ、構図、配色等について構想を練る。 用具を適切に用いて質感や空間表現を行い、心象風景として絵画に表現する。
	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。	鑑賞 美術作品と作者、時代背景や技法等について理解を深め、そのよさや美しさを味わい、感じ方や考え方を深める。
	遠近法 ・ ロゴを透視図法で表す。 自分のロゴを、透視図法を用いて立体感や奥行きが感じられるようにデザインする。		

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価	学習の実現状況
A 十分満足できる	80%以上
B おおむね満足できる	50%以上 80%未満
C 努力を要する	50%未満

各評定の範囲	評定
90%以上	5 特に高い程度のもの
80%以上 90%未満	4 十分満足できる
50%以上 80%未満	3 おおむね満足できる
20%以上 50%未満	2 努力を要する
20%未満	1 一層努力を要する

■ ■ ■ 目 標 ■ ■ ■

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

■ ■ ■ 各分野の目標 ■ ■ ■

【体育分野】

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身につけようとする。
- (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

【保健分野】

- (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活をいたむ態度を養う。

■ ■ ■ 評価の観点と方法 ■ ■ ■

観点①… 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけている。

観点②… 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、これらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断している。

観点③… 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的・自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

評 価 方 法	観点①	観点②	観点③
授業の様子		○	○
実技テストの結果	○	○	
学習カードの内容や提出		○	○
定期考査の結果	○	○	
レポートの完成度と内容		○	○
学習ノート・ワークの内容と提出		○	○

■ ■ ■ 各学年の内容 ■ ■ ■

	第 1 学 年 (男女共通)	第 2 学 年 (男女共通)	第 3 学 年 (男女共通)
一 学 期	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。	・体づくり運動 自分の目的にあった体力を高める運動を組み合わせることができる。
	・集団行動 ・新体力テスト	・集団行動 ・新体力テスト	・集団行動 ・新体力テスト
	・陸上競技 基本的な動きを身に付け、目標記録に挑戦したり、相手と競争したりして楽しむことができる。	・陸上競技 各種目特有の技能を高めながら、目標記録に挑戦したり、相手にアドバイスをしたりして楽しむことができる。	・陸上競技 各種目特有の技能を高めながら、目標記録に挑戦したり、相手にアドバイスをしたりして楽しみ、運動観察の方法や体力の高め方を理解できる。
	・水泳 自分の泳力を確かめ、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付けることができる。	・水泳 記録の向上や競争の楽しさを味わうことができる。また、新たな泳法に挑戦し身に付けることができる。	・水泳 新たな泳法を身につけながら、練習を工夫し効率のよい泳ぎを高めることができる。
	・健康な生活と疾病の予防 健康の成り立ちと病気の発生要因や生活習慣病の予防について理解できる。	・健康な生活と疾病の予防 健康の成り立ちと病気の発生要因や生活習慣病の予防、飲酒、喫煙、薬物乱用防止について理解できる。	・健康な生活と病気の予防 感染症の予防、健康を守る社会の取り組みについて理解できる。

	第 1 学 年 (男女共通)	第 2 学 年 (男女共通)	第 3 学 年 (男女共通)
二 学 期	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。 ・水泳 自分の泳力を確かめ、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付けることができる。 ・器械運動 技の分類と発展の仕方を知り、基本となる技が滑らかにできる、技を組み合わせで演技ができる。 ・陸上競技 基本的な動きを身に付け、目標記録に挑戦したり、相手と競争したりして楽しむことができる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ルールを学びながら基本的な技能を高めることができる。 ・体育理論 運動やスポーツへの多様な関わり方について理解できる。 ・心身の機能の発達と心の健康 心身の機能の発達や、心の健康を保持増進する方法を理解できる。	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。 ・水泳 記録の向上や競争の楽しさを味わうことができる。また、新たな泳法に挑戦し身に付けることができる。 ・器械運動 練習を工夫し、できる技をより滑らかにしたり、条件を変えたり、発展技に挑戦したりすることができる。 ・陸上競技 種目特有の技能を高めながら、目標記録に挑戦したり、相手にアドバイスをしたりして楽しむことができる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技能を高めながら、仲間と連携した動きでゲームの攻防を展開して楽しむことができる。 ・体育理論 運動やスポーツの学び方について理解できる。 ・傷害の防止 交通事故や自然災害、犯罪被害などによる傷害の防止、応急手当の仕方について理解できる。	・体づくり運動 自分の目的にあった体力を高める運動を組み合わせで行うことができる。 ・水泳 新たな泳法を身につけながら、目標を決めたり、練習を工夫して効率のよい泳ぎを高めたりすることができる。 ・陸上競技 各種目特有の技能を高めながら、目標記録に挑戦したり、相手にアドバイスをしたりして楽しみ、運動観察の方法や体力の高め方を理解できる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを展開して楽しむことができる。 ・健康と環境 個人や社会の健康のために飲料水や空気の管理をする、自然を汚染しないことが必要であることを理解できる

	第 1 学 年 (男女共通)	第 2 学 年 (男女共通)	第 3 学 年 (男女共通)
三 学 期	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ルールを学びながら基本的な技能を高め、簡単なゲームを楽しむことができる。 ・武道 礼法や安全に対する心得を理解し、基本動作を正しく身に付けることができる。 ・ダンス いろいろなイメージや踊りの特徴、リズムをとらえて踊って楽しむことができる。 ・体育理論 運動やスポーツの多様な楽しみ方について理解できる。 ・心身の機能の発達と心の健康 心身の機能の発達や、心の健康を保持増進する方法を理解できる。	・体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高めることができる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を高め、高まった力を生かしてゲームの攻防を展開して楽しむことができる。 ・武道 礼法や安全に対する心得を理解し、基本動作や基本となる技を身に付けながら、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開して楽しむことができる。 ・ダンス 深めたいイメージや動き方、リズムのとらえ方を工夫して踊って楽しむことができる。 ・体育理論 運動やスポーツの行い方について理解できる。 ・傷害の防止 交通事故や自然災害、犯罪被害などによる傷害の防止、応急手当の仕方について理解できる。	・体づくり運動 自己に適した、体力を高める運動を組み合わせで行うことができる。 ・球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームを展開して楽しむことができる。 ・体育理論 人々を結び付けるスポーツの文化的な働きについて理解できる。 ・ダンス 感情を込めて踊ったりみんなで自由に踊ったりする楽しさを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をして楽しむことができる。 ・健康と環境 個人や社会の健康のために飲料水や空気の管理をする、自然を汚染しないことが必要であることを理解できる

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価	学習の実現状況
A 十分満足できる	80%以上
B おおむね満足できる	50%以上 80%未満
C 努力を要する	50%未満

各評定の範囲	評定
90%以上	5 特に高い程度のもの
80%以上 90%未満	4 十分満足できる
50%以上 80%未満	3 おおむね満足できる
20%以上 50%未満	2 努力を要する
20%未満	1 一層努力を要する

技術・家庭科

■■■ 目標 ■■■

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

■■■ 各分野の目標 ■■■

【技術分野】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【家庭分野】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を見つけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

■■■ 評価の観点と方法 ■■■

観点①… 生活や社会で利用されている技術・家庭についての基礎的な知識や技能を身に付けている。

観点②… 生活や社会の中から問題を見出して、課題設定し創造・工夫し、課題を解決している。技術を適切に評価・活用している。

観点③… よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

【技術分野】

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業への取り組み	○	○	○
ファイルのプリントの内容			○
ワークシートの記述内容	○	○	○
レポートの完成度と内容	○	○	
作品の製作過程と完成度	○	○	
技能テストの結果	○		
定期考査の結果	○	○	○

【家庭分野】

評価方法	観点①	観点②	観点③
授業の取り組み	○	○	○
ワークシート・ノート 記述内容	○	○	○
レポートの内容		○	○
作品の製作過程	○	○	○
提出物の内容		○	○
定期考査の結果	○	○	○

■■■ 各学年の内容(技術分野) ■■■

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
一 学 期	「技術分野のガイダンス」 ・技術とは ・製品の工夫 「材料と加工の技術」 ・丈夫な構造 ○身近な材料 ・材料の基本的な特徴	「生物育成の技術」 ○作物の栽培 ・生物を育てる技術 ・栽培に適した土 ・種まき間引き ・かん水、肥料の与え方 ・病気と害虫 ・収穫 ○生活に役立つ木工作品をつくらう ・製作品の構想 ・製作図の作成 ・木材へのけがき ・木材の切断 ○生物育成に関する技術の評価と活用 ・環境、経済、社会的側面からの評価 ・生物育成に関する技術の活用 ・持続可能な社会	「情報の技術」 ○ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング ・情報通信ネットワークの構成 ・情報を利用するための基本的な仕組み ・安全・適切なプログラムの制作 ・制作過程や結果の評価、改善と修正

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	○生活に役立つ木製品をつくらう ・部品加工 ・検査と修正 ・組み立て ・接合 ・塗装 ・完成した作品の評価	「情報の技術」 ○情報を安全に利用しよう ・情報技術の特性 ・情報モラル ・知的財産権 「エネルギー変換の技術」 ○生活に役立つエコキューブラジオの製作 ・電気エネルギーを利用する仕組み ・回路製作 ・はんだづけ ・電子部品の役割	○プログラムによる計測・制御 ・計測・制御システム ・プログラムとプログラム言語 ・順次処理 ・反復処理 ・分岐処理

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	○材料と加工に関する技術の評価と活用 ・環境、経済、社会的側面からの評価 ・材料と加工に関する技術の活用 ・持続可能な社会	○機械の運動、回転運動、往復運動の仕組みを調べよう ・回転運動を伝える仕組みの特徴と用途 ・リンク装置やカム装置 ○エネルギー変換に関する技術の評価と活用 ・環境、経済、社会的側面からの評価 ・エネルギー変換に関する技術の活用 ・持続可能な社会 「情報の技術」 ○情報を安全に利用しよう ・情報技術の特性 ・情報モラル ・知的財産権 「生物育成の技術」 生物育成の役割と工夫	○情報に関する技術の評価と活用 ・環境、経済、社会的側面からの評価 ・情報に関する技術の活用 ・持続可能な社会 ○材料と加工技術 ・卒業記念制作 ・低融点合金でオリジナルキーホルダーを作成しよう 「情報の技術」 ○コンピュータの仕組みを知ろう ・5大機能・装置 ・デジタル化 ・データ量

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価		学習の実現状況	各評定の範囲		評定	
A	十分満足できる	80%以上	90%以上	5	特に高い程度のもの	
			80%以上 90%未満	4	十分満足できる	
B	おおむね満足できる	50%以上 80%未満	50%以上 80%未満	3	おおむね満足できる	
			20%以上 50%未満	2	努力を要する	
C	努力を要する	50%未満	20%未満	1	一層努力を要する	

技術・家庭科

■■■ 目 標 ■■■

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

■■■ 各分野の目標 ■■■

〔技術分野〕

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

〔家庭分野〕

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を見つけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

■■■ 評価の観点と方法 ■■■

観点①… 生活や社会で利用されている技術・家庭についての基礎的な知識や技能を身に付けている。

観点②… 生活や社会の中から問題を見出して、課題設定し創造・工夫し、課題を解決している。技術を適切に評価・活用している。

観点③… よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

〔技術分野〕

評 価 方 法	観点①	観点②	観点③
授業への取り組み	○	○	○
ファイルのプリントの内容			○
ワークシートの記述内容	○	○	○
レポートの完成度と内容	○	○	
作品の製作過程と完成度	○	○	
技能テストの結果	○		
定期考査の結果	○	○	○

〔家庭分野〕

評 価 方 法	観点①	観点②	観点③
授業の取り組み	○	○	○
ワークシート・ノート 記述内容	○	○	○
レポートの内容		○	○
作品の製作過程	○	○	○
提出物の内容		○	○
定期考査の結果	○	○	○

■■■ 各学年の内容(家庭分野) ■■■

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
	家庭分野のガイダンス	家庭分野のガイダンス	家庭分野のガイダンス
一 学 期	A 家族・家庭生活	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境
	○家族・家庭と地域のかかわり *家族の一員としてできることを考えよう ・家庭家族の機能 ・家族関係をより良くする方法	○健康と食生活 *食事の役割 *健康に良い食習慣	○消費者の権利と責任 *消費者トラブルと支えるしくみ
	B 衣食住の生活	○何をどのくらい食べればよいか *栄養素の種類と働きを知ろう *中学生に必要な栄養の特徴	A 家庭・家族と子どもの成長 *幼児の生活と家族 ・幼い頃を振り返ろう ・幼児の心身の発達について
	○私たちの住生活	*食品に含まれる栄養素を調べよう *一日に必要な食品の種類と既量 *一日分の献立の工夫	・幼児の生活と遊びを知ろう
	*住まいの働き		幼児のおもちゃの工夫
	*家族が暮らしやすい住まい方を考えよう		
	*健康を守る室内環境の整え方		
	*住まいの安全		
	・家庭内事故防止	○生活を豊かにする製作 *作品製作	製作 幼児のおもちゃ
	・災害に備える		
	○生活を豊かにする製作 *作品製作		

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	B 衣食住の生活	○生活を豊かにする製作	A 家庭・家族と子どもの成長
	○私たちの衣生活 * 衣服の働きを知る。 * 目的に合わせて自分らしく着よう。 * 衣服を計画的に活用しよう * 衣服の選択について考えよう * 日常着の手入れと補修 基礎技能 ○生活を豊かにする製作 * 製作の基礎技能 ミシン操作	* 作品製作 ○調理と食文化 * 食品の選択と購入 ・生鮮食品 ・加工食品 * 食品の保存 ・食中毒予防 * 調理の基礎 * 肉・魚、野菜の調理の工夫 ・調理実習 * 地域の食文化 ・郷土料理 * 和食 食生活の課題と実践 ・自分の食生活を振り返り課題を設定し、実践し、レポートにまとめる。 * レポート作成と発表	* 幼児の生活と家族 ・幼児の生活習慣の習得について考えよう ・幼児との関わり方を考えよう 製作 幼児のおもちゃ

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
三 学 期	B 衣食住の生活	C 消費生活・環境	A 家庭・家族と子どもの成長
	○生活を豊かにする製作 * 製作の基礎技能 ミシン操作 C 消費生活・環境 ○私たちの消費生活 * 消費者としての自覚 * 買い物の法律的な意味 * いろいろな販売方法と支払い方法	○私たちの消費生活 * いろいろな販売方法と支払い方法 ○消費者の権利と責任 * 消費生活の及ぼす影響を考える。 ・社会 ・環境	* 生活の課題と実践 ・幼児にとっての食事を考えよう 「おやつの工夫」 * これからの私と家族 ・子どもにとっての家族を考えよう

評価・評定のライン			
観点別学習状況の評価		学習の実現状況	
A	十分満足できる	80%以上	
B	おおむね満足できる	50%以上 80%未満	
C	努力を要する	50%未満	

各評定の範囲		評定	
90%以上	5	特に高い程度のもの	
80%以上 90%未満	4	十分満足できる	
50%以上 80%未満	3	おおむね満足できる	
20%以上 50%未満	2	努力を要する	
20%未満	1	一層努力を要する	

英語科

目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、読むこと・聞くこと・話すこと・書くことの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う

- (1) 英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする
- (2) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて、やりとりができるようにする
- (3) 英語で話すことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどをスピーチ発表ができるようにする
- (4) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする
- (5) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする

評価の観点と方法

観点①… 知識・技能

聞くこと・話すこと・読むこと・書くことについて実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている

観点②… 思考・判断・表現

目的・場面・状況に応じて自分の意見や考えを話したり、書いたりできる

観点③… 主体的に学習に取り組む態度

聞いたり読んだり、自分の意見や考えを話したり書いたりすることにおいて、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。デジタルドリルを活用し、ふりかえりができる。

評価方法	観点①	観点②	観点③
コミュニケーション活動への取り組み姿勢・デジタルドリルコンテンツ等、提出物の内容			○
定期考査・単元テストの結果	○	○	
表現活動への取り組み姿勢		○	○
聞き取り・読み取り活動の結果	○		
音読・暗唱・パフォーマンステストへの取り組み姿勢・結果		○	○

- ・単語や連語および慣用表現の選択の幅が広がったことを踏まえ学習させる
- ・4技能を総合的に育成する
- ・辞書の使い方に慣れ、活用できるようにさせる

評価・評定のライン

観点別学習状況の評価	学習の実現状況
A 十分満足できる	80%以上
B おおむね満足できる	50%以上 80%未満
C 努力を要する	50%未満

各評定の範囲	評定
90%以上	5 特に高い程度のもの
80%以上 90%未満	4 十分満足できる
50%以上 80%未満	3 おおむね満足できる
20%以上 50%未満	2 努力を要する
20%未満	1 一層努力を要する

各学年の内容

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
学 期	Unit 0 Welcome to Junior High School 小学校で習った表現を使って、自分と相手のことについてやり取りができる。	Unit 0 My Spring Vacation 春休みの思い出について、写真などを見せながら発表することができる。	Unit 0 Three Interesting Facts about Languages 受け身の用法を理解して表現できる。
	Unit 1 New School, New Friends ふだんよくすることや、できることを伝えることができる。	Unit 1 A Trip to Singapore be going to や will, SV00, SV0C の文を理解し、休暇や週末の予定について、たずねたり伝えたりすることができる。	Unit 1 Sports for Everyone 現在完了形(経験用法)の文を理解し、表現できる。 Let's Write 1 有名人名への手紙 気持ちを伝えるために、表現方法を工夫しながらファンレターを書くことができる。
	Unit 2 Our New Teacher 身近なひとやものについて紹介したりたずねたりすることができる。	Let's talk 1 ホテルでのトラブル 場面に応じて、苦情を言ったり、それに対して謝ったりすることができる。	Let's Listen 1 ディスカッション ディスカッションを聞き、自分の意見を考えるのに必要な情報を理解することができる。
	Unit 3 Club Activities いつ・どこなのかをたずねたり、数をたずねたりすることができる。	Unit 2 Food Travels around the World 接続詞 when if that because の文を理解し、表現できる。	Unit 2 Haiku in English 現在完了形(継続用法)の文を理解し、表現できる。 Let's Talk 1 はじめての出会い
	Grammar for Communication2 Unit 4 Friends in New Zealand 相手に指示したり、時刻や好きなものをたずねることができる。	Let's talk 2 ていねいなお願い 相手や場面に応じて、ていねいに許可を求めたり、依頼したりすることができる。	Let's Listen 2 講演 社会的な話題に関する講演を聞き、話し手の伝えたい内容を理解することができる。
学 期	Grammar for Communication3 Unit 5 A Japanese Summer Festival 行った場所や楽しんだことについて話すことができる。	Unit 3 My future job 不定詞の形・意味・用法を理解し、表現できる。	Unit 3 Animals on the Red List It-for...to~, want+ (人など) + to, let [help]+ (人など) + 動詞 の原形の文を理解し、表現できる。
	Stage Activity 1 "All about Me" Poster 自分の好きなことについて、つながりのある文章を書くことができる。	Let's write 1 留守番電話のメッセージへの返信 留守番電話のメッセージを聞いて内容を理解し、相手に返信メールを書くことができる。	Let's Write 2 記事への意見 社会的な話題について、理由や根拠を含めて自分の意見を書くことができる。
		Stage activity 1 A Message to Myself in the Future 好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書くことができる。	Stage Activity 1 My Activity Report これまでの経験をふり返って活動報告を発表することができる。
学 期		Let's Read 1 History of Clocks 説明文を読み、時計についての歴史を読み取ったり、説明したりすることができる。	Let's Read 1 A Mother's Lullaby 物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを理解することができる。

	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	Small Talk! 1 Unit 6 A Speech about My Brother 自分と相手以外の人やものについて、たずねたり伝えたりすることができる。	Unit 4 Homestay in the United States have to, don't have to, will, must, must not の文を理解し、表現できる。 動名詞の用法を理解し、表現できる。	Let's Listen 3 ラジオの災害情報 災害情報を聞き、どう行動すればよいかを理解することができる。
	Let's talk 1 お願い 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。	Unit 4 Be Prepared and Work Together 間接疑問文, SV00 (what 節), 現在分詞を理解し、表現できる。	Unit 4 Let's Talk 2 町中での手助け 相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり応じたりすることができる。
三 学 期	Grammar for Communication 4 Unit 7 Foreign Artists in Japan Which / Whose...? どちらなのか、だれのものなのかをたずねたりすることができる。	Unit 5 Universal Design 疑問詞 + to, that 節を理解し、表現できる。	Let's Listen 4 テレビの国際ニュース ニュースなどのテレビ番組の音声聞いて、概要や要点を理解することができる。
	Let's talk 2 体調 相手の体調についてたずねたり、自分の体の不調について説明したりできる。	Let's talk 3 電車の乗りかえ 乗り物での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。	Unit 5 A Legacy for Peace 接触節を含んだ文や関係代名詞を用いた文を理解し、表現できる。
四 学 期	Let's Listen 1 留学生のプロフィール 人に関する紹介を聞いて、基本情報やその人がどのような人かを理解することができる。	Unit 6 Research Your Topic 比較表現を含む文の形・意味・用法を理解し、表現できる。身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる。	Let's Write 3 グラフや表の活用 資料から読み取った情報について、事実と意見をわけて書くことができる。
	Grammar for Communication 5 Unit 8 A Surprise Party 今していることについて説明したり、たずねたりすることができる。	Let's talk 4 買い物 自分の好みや要望を伝えながら買い物をすることができる。	Stage Activity 2 Discover Japan 日本や郷土の文化などを紹介する文を、詳しい情報を加えながら書くことができる。
五 学 期	Let's Write 1 Grammar for Communication 6 Unit 9 Think Globally, Act Locally したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、たずねたりすることができる。	Stage Activity 2 Research and Presentation クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表することができる。	Let's Listen 5 世界で働く人へのインタビュー 人物の経歴を聞いて、概要を理解することができる。
	Let's Talk 3 道案内 徒歩での道順をたずねたり、教えたりすることができる。	Let's Read 2 A Glass of Milk 物語を読み、場面や登場人物の心情の変化を読み取ったり、気持ちなどをこめて音読したりすることができる。	Unit 6 Beyond Borders 仮定法 (I wish I could [had] ...) (If + 主語 + were ..., ~.) (If + 主語 + 動詞の過去形, ...)
六 学 期	Let's Listen 2 欠席した友達への電話連絡		Let's Listen 6 中学校生活の思い出 スピーチを聞いて、話の概要を理解することができる。
			Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate 主張とその理由を明確にしなが、ディベートをすることができる。

	友達にあとで伝えるべき情報を聞き取ることができる。 Stage Activity 2 My Hero 好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。		
	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
二 学 期	Let's Read 1 Let's Climb Mt. Fuji 図や表などの情報を参考に、書き手の考えを読み取ることができる。	Unit 7 World Heritage Sites 受け身の形・意味・用法を理解し、適切に表現できる。 各地の世界遺産を紹介することができる。	Let's Read 2 Power Your Future エネルギー問題に関する説明文を読んで、概要を理解し、自分の考えや意見を述べるすることができる。
	Small Talk! 2 Unit 10 Winter Vacation 過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。	Let's talk 5 電話でのやり取り 自分の好みや要望を伝えながら電話で用件を伝えることができる。申し出の表現 Do you want to ...? の用法を理解し、表現できる。	Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs スピーチの原稿を読んで、内容の要点を理解し、自分の言葉で伝えることができる。
三 学 期	Unit 11 This Year's Memories 過去の状態や気持ち、過去のある時点にしていたことについて説明することができる。	Stage Activity 3 My Favorite Place in Our Town 自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えることができる。	Further Reading Welcome to Tokyo 身近な問題について理解し、自分の考えを表現できる。
	Let's Talk 4 レストラン レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりすることができる。	Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet 人物の伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解することができる。	
四 学 期	Let's Listen 3 ラジオ DJ のトーク 休暇の思い出など日常な話を聞いて、主な内容を聞き取ることができる。		
	Grammar for Communication 7 Stage Activity 3 My Favorite Event This Year 思い出に残った学校行事について発表することができる。		
五 学 期	Learning LITERATURE in English Let's Read 2 City Lights 物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを理解することができる。		
なお、単元ごとにデジタルドリルを活用し、習熟度を測るとともに振り返りを行う。			